さとり世代の求職活動

春は転機。4月にはたくさんの若者が新社会人のスタートを切る。採用環境は「売り手市場」と言われた時期があったが、2008年からの不況で「就職氷河期」に。ただ最近は景気回復とともに採用も活発化している。だが採用活動の短期化もあり「売り手市場」とは言えそうにない。現在の若者は「さとり世代」と言われるような無欲さで例えられる。そんな若者たちは、どのような就職活動をくぐり抜けているのか。

塾で内定狙う

福岡市内に1月、学生の就職活動を支援する「内定塾 福岡校」がオープンした。東京や大阪を中心に約6000人をサポートした実績を背景に開校。福岡校を運営するキャリーオン（福岡市中央区）の日高渉さんは「（学生と企業の）ミスマッチの状況に一石を投じたい」と力を込める。

2月時点で福岡校に通うのは、大学3年生や就職のため留年した10人。自己分析や面接、グループディスカッションといった講座、模擬面談などの指導を受けている。他地域での内定実績を見ると大手企業の名前が並ぶが、必ずしも大手への就職だけを目指すサービスではないという。

同社は地場の人材派遣企業で「内定塾」は総合的な人材サービス提供の一環でスタートした。そのため有料サービスとしての事業展開だけでなく、無料セミナーを通じた学生支援も大きな位置付けとしている。

就職して終わりの就職活動ではなく、入社後を考えた活動を勧める。カウンセリングのような個別面談に重点を置き、学生の持ち味を引き出すことで、学生の価値観に合う企業を社風も考慮して提案。その上でエントリーシートや面接で、何をアピールすれば採用担当者に響くかを指導する。

「就職サイトには良い面しか書かれない。ネットを使う就職活動ではミスマッチは起きるべくして起きる」と日高さんは話す。地元志向でありながら地場企業を志望しないなど、学生側の要因もあるようだ。

就職活動のやり方がわからない学生も多いという。大学でキャリア教育や就職支援は手厚くなっているが「学生に対して職員が少ない。大学はベースアップと位置付けた方がいい」（日高さん）という。

「内定塾 福岡校」では、無料セミナーを通じた学生の就職活動支援も行っている

採用企業の就職講座

FQSSの「就活講座」は学生の関心も高い

本来は採用側の企業が、採用活動と切り離した学生向け就職セミナーを開く珍しい例がある。富士通九州システムサービス（FQSS、福岡市早良区）は、就職活動中の学生向け「就活講座」を毎年開催している。自社PRは一切なく、社名も極力出さない。富士通グループだが、グループ全体の取り組みではなく、同社独自の活動という点もユニークだ。

90分1コマの講座の中で「就職活動を始めるにあたって知っておくべきこと」と「企業の求める人材像と、働く前に知っておいてほしいこと」の2テーマを人事担当者が講演。「企業は学生のどこを見ているか」「面接時に試験官は何を見るか」といったポイントを説明。表面的な内容ではなく、採用の「手の内」を明かすような実際的な内容だ。さらに就職活動のために大学を自主留年した担当者の経験をもとに「留年して就職活動するのはさびしい」といった体験談を明かすなど、学生に対して誠実に向き合う。

同講座は05年に親会社の富士通九州システムエンジニアリング（現・富士通九州システムズ）が「育てる採用活動」へ転換したことをきっかけに始めたもの。選考側の目線や社会に出る際の心構えを学生に説明することで、ミスマッチ防止を図る。13年度は事業所のある福岡、大分、熊本、東京で全6回を開催。大学などでも実施している。「社会のことは企業が教えていかなければいけない」と前原幸四郎FQSS経営管理部シニアディレクターは力を込める。

ゲーム形式の説明会

「天神内定ゲーム」ではグループ行動も重要な要素

採用側の企業も、優秀な学生獲得には工夫が必要なようだ。南福岡自動車学校（福岡県大野城市）は、ゲーム形式を取り入れた就職説明会を1月に実施した。15年卒の学生に向けて「天神内定ゲーム」を開催、学生約100人を集めた。「経営理念の『感性あふれる人間づくり』に従い、そこから逆算して企画した」と、総務部人事チームの榎本麻由チーフは説明する。

「天神内定ゲーム」は流行している〝脱出ゲーム〟のイメージに近い。集まった学生にクイズを出題し、3人1組になって解答する。ヒントは天神の街中に隠されており、手がかりをつかみながら答えを埋めるものだ。同社の教習車を駐車場に止めておいたり、説明会の共同参加企業である不動産業者の店舗に設置したりして、ヒントを出した。答えを探し見つけるうちに、参加企業の事業と接点を持たせる仕掛けだ。

同説明会は南福岡自動車学校が独自に企画。地場中小企業3社とともに合同説明会のかたちで実施した。13年にも「天神回遊説明会」として開催し、南福岡自動車学校に14年に入社した社員のうち半数が同説明会の参加者だった。成果があったため今年も行った。

また「就職活動が怖い」と尻込みする学生に対して、説明会の心理的ハードルを下げることで足を踏み出す手助けの意味も持たせた。さらにグループで解答させることで、知らない学生同士にコミュニケーションが生まれ、今後の就職活動を行う中での仲間ができることにも期待している。

ハローワークで新卒求人

ハローワークと聞いて新卒学生の就職をまず思い浮かべる人は、少ないだろう。だがハローワークでも就職活動をする時代なのだ。元は08年9月のリーマン・ショックに端を発する景気悪化による、内定取り消しなど採用環境の悪化に対応するため始めたものだ。

国では学生や卒業後3年以内の既卒者に向けた専用窓口として「新卒応援ハローワーク」を全国に設けている。福岡市内では天神の中心部のオフィスビル内にある。応募書類の書き方や面接対策などを行う就職ガイダンスのほか、模擬面接やマナーセミナーなどの各種講座を実施。予約制で個別の面接指導なども行っている。

福岡新卒応援ハローワークの西田隆良室長によると「利用者の6割が既卒者」という。早い学生では3―4月には内々定が出る。就職環境は良くなっている一方で、内定の獲得が二極化するなど支援を必要とする未内定者も多くいる。「大学では行き届かないところをサポートしている」と西田室長は話す。

11年度からは大学4年生と既卒者に向けた求人紹介も実施。地場の中小企業を中心に求人を独自に集めており、9割以上が正社員の求人という。このほか全国の求人情報も検索できる。

福岡県内では福岡市と北九州市に2カ所あるほか「新卒応援コーナー」が県内3カ所に設置されている。12年度の利用者数は約4万人、うち就職者は約3300人だった。13年度（14年1月時点）は約3万人が利用し、約3000人の就職が決まったという。

このほか若者の採用・育成に積極的で、詳細な企業情報や採用情報を公表している企業を「若者応援企業」として紹介。人材の定着率も公開されており、求職者が仕事を探す際の参考にできるサービスもある。ハローワークを所管する福岡労働局職業安定課若年雇用対策係の田中昭州主任は「最後まで就職を諦めさせない」としており、セーフティーネットの役割も持たせている。

福岡新卒応援ハローワークには、就職を目指す学生らが集まる

環境は好転？

厚生労働省福岡労働局が2月末にまとめた14年3月卒業者の就職内定率（14年1月末時点）は、大学生で69.4%と前年比3.0ポイント上昇。高等専門学校生と短大生も含めた「大学等」の数値でも69.8%で同3.0ポイント上昇するなど採用の回復傾向が見られる。

日刊工業新聞社が3月上旬にまとめた全国の中小企業137社を対象にしたアンケートでは、14年の人員計画について「増やす」が77.4%と「減らす」2.9%を大きく上回った。また9割以上が正社員の採用増を検討していた。このアンケートは新卒採用に限定したものではないが、採用枠は広がりそうだ。

また楽天リサーチ（東京都品川区）が、15年卒の新卒採用について企業の人事担当者に聞いた調査でも、前年より採用人数を増やす予定の企業は23.3%、「横ばい」でも53.9%で「減らす」7.6%と大きく差が開いた。

一方で日刊工業新聞社の調査で浮き彫りになったのは、中小企業が採用環境に抱く危機感。採用の拡大傾向とは裏腹に「昨年より厳しい」が39.4%に上り、「変わらない」が47.5%を占めた。「好転」は13.1%に留まり、人材の大手志向や中小企業の採用の難しさも見えている。

旭化成は救急医療分野へ進出。
AEDをはじめ、様々な技術を進化させてゆきます。

全国の公共施設に普及しつつあるAED。
それは、停止してしまった心臓の心電図を解析し、
必要に応じて電気ショックを与える医療機器である。
旭化成は、米国の大手救急医療会社ゾール・メディカル社とともに、
AEDをはじめとする救急医療機器の開発・販売をスタートした。
心停止で倒れた人に対して最も大切なのは、まず「胸骨圧迫」である。
気道を確保し、胸の中央を両手で力強く、一定のリズムで押し続ける。
この初動を素早く行うことで、救命率は2～3倍上がる。
新しいAEDは、音声で正しい装着と有効な胸骨圧迫を誘導し、
一般の人でも救命処置が行えるようになっている。
誰かが倒れた時助けられるのは、救急隊員ではなく、
たまたまその場に居合わせた人である。
進んで手を差し伸べる勇気をサポートし、
ともに適切な処置を行える機器をつくってゆきたいと思う。
昨日まで世界になかったもの「進化した救急医療機器」。
詳しくは www.asahi-kasei.co.jp

昨日まで世界になかったものを。

AsahiKASEI